愛老園だより

第 98 号

— 発　行 —
社会福祉法人 三友会
伊勢崎市太田町686
☎0270－23－2277

新型コロナウイルス雑感

社会福祉法人三友会　理事長　鹿沼道雄

新型コロナウイルスについて初めてニュースを聞いたのは、令和2年1月の旅行先でのことだった。新型コロナウイルスがどのようなものなのか、どんな症状になり、どのような医療を受ければいいのか、全くわからないことだらけだった。

時間を経て、少しずつ情報を整理できるようになると、その危険なことに不安を覚えるようになった。

地域における活動の制約、各種施設での対応など様々な情報を得るたびに、それが様々な活動制限へとつながっていく。社会の活動の在り方とともに、個人の活動の在り方も考えなければならない。その結果、仕方のないことだが地域活動も制限せざるを得なくなった。

地域活動は言うまでもないが、地域の方々による大切な活動であり、より地域生活を良くしていくものだと思っているので、制限されることはやむを得ないことだが残念で仕方がない。今できることは体調をしっかり管理しつつ、地域活動を少しずつ進めようとする気持ちを持ち続けることだと思っている。

ワクチン接種も始まり、少し状況がよくなったようにも思えるが、新たな変異株が登場した。そのような状況ではあるが、今後とも気を引き締めつつ、社会とのつながりを大切にしようと思っている。

愛老園

次の方からご寄付を戴きました。厚くお礼申し上げます。（敬称略）

（令和2年6月1日～令和3年7月2日まで）

〈寄付金〉
- 太田町区　区長　松本　秀次
- 市内鹿島町　木暮　信一
- 〃　新栄町　榎原　栄蔵
- 〃　安堀町
- 伊勢崎市くらしの会　中田　育代
- 〃　新栄町　関　育弘
- 〃　中央町　岡田　武夫
- 〃　中央町　荻原　幸子
- 〃　三光町　豊島　健一
- 兵庫県芦屋市　福本　修
- 匿名

〈物品〉
- さいたま市浦和区　岩上　哲也
- 前橋市江田町　GENITEE　渡辺　治代
- 市内今泉町　インターナショナルキッズアカデミー
- 玉村町角渕　高橋　春江
- 市内曲輪町　第一生命㈱　新伊勢崎オフィス
- 〃　太田町　細野富貴江
- 前橋市下大島町　関口　恒雄
- 市内上諏訪町　川端かずよ
- 〃　赤堀今井町　横塚　由香
- 東吾妻町泉沢　青木　一雄
- 太田町さくら草の会　小暮　洋子
- 高崎市下斉田町　細井　雅生
- 市内日乃出町　高橋　詠美
- 高崎市棟高町　田中　新一
- 市内宮古町　宇野　正信
- 〃　大手町　原　義男
- 〃　連取町　栗原　理
- 〃　太田町　新井　芳子
- 〃　安堀町

うぬきこども広場

責任者　福島　澄江

こども広場の子供たちは、コロナ禍でもみんな元気に通ってきています。宿題やおいしいごはん、庭に出て遊んだり、お部屋でボール投げやゲームをしたり、それぞれ個性を発揮して楽しんでいます。

『今年の夏もキャンプができないの…』と、気持ちを伝えてきます。

コロナが落ち着いて、子どもたちの望みが叶えられたら、どんなに喜ぶでしょう。

はしゃいで喜ぶ顔が目に浮かびます。

新人職員研修

新卒者4名を含む8名の新採用介護職員を対象に研修を行いました。

新型コロナ感染症の影響で、在学中に、十分な施設での介護実習ができなかったことを踏まえ、実技にも時間をかけた内容です。

入職後3ヶ月になりますが、ご利用者から『昨日は顔が見えなかったけどお休みだったの？今日もよろしくね。』と、気にかけて下さっていることに、仕事への励みになりますと、新入職員からの声があります。

ご利用者の気遣いに支えられながら、福祉を担う職員としての成長を期待します。

防災訓練

規模を縮小し、密を避けて自主訓練

編集手帳

前号の発行から一年、間が空いてしまい申し訳ありませんでした。

地域の皆様との交流が制限され、何か物足りなさを感じながら、毎日を過ごしております。

しかし、園内は、ご利用者の皆様の笑顔に支えられ、活気を保っています。

一日も早く、平穏な日々が帰ってくることを願っております。（政）

委員会活動報告

“第二の人生”を支えるために

介護の手が必要になるとは、生活の一部を失うことに違いありませんが、新たな人生の始まりでもあると、私たちは考え、よりよい人生の支えとなるべく、委員会活動を行っています。

衛生委員会

委員長　中原　幸子

コロナ禍において私達はまず、周囲の感染状況の把握に加え、必要品の在庫・流通状況の確認を行っています。また、今まで以上に、施設内へのウイルス侵入を阻止するために管理を徹底し、中でも長期にわたる感染対策により、職員の危機意識が薄れないよう注意を払っています。日々の朝礼では、園長より県内の感染状況の報告があり、感染予防が意識づけられています。

新型コロナ感染対策の影響か、インフルエンザ等感染症や肺炎の発症が抑制されています。今後の感染対策に役立てたいと思います。

リハビリ委員会

委員長　森口　真知子

愛老園では月2回、理学療法士の訪問指導があり、リハビリ希望のある方を中心に診ていただいています。

理学療法士のアドバイスを基に立てたリハビリ計画に沿って、デイサービスではご利用中の15分～20分間リハビリ（個別機能訓練）を実施しています。

一人暮らしのご利用者が多く、高齢になると身体機能は低下し、転倒リスクが高くなります。住み慣れた自宅での生活を続けるために、80歳代、90歳代のご利用者が一生懸命リハビリに取組まれ、成果がみられています。現在の身体機能が維持され、在宅生活を続けていただくために、心身ともにサポートしています。

生産性向上委員会

委員長　栗原　正人

ご利用者の利益向上、すなわち生産性の向上のため、各委員会と連携し活動しています。

社会保障費の削減が毎年議論され、人材確保が厳しくなる中、限られた事業収入と人材によって、いかに効率よく良質のサービス提供を継続するかが私たちのテーマです。

具体的には、職員の節約意識を高めると同時に、在庫管理と購入ルートを改善し、また、介護用品とケアの見直しにより、ケアをする側される側にとっての最善を検討しました。

さらに、効率化にとって重要な、『人材育成』について、研修委員会との協力で、新人研修をはじめ各種研修を行っています。

事故・ヒヤリハット委員会

委員長　辰巳　浩三

大事故を防ぐことを目的に、ヒヤリハット報告を全事業所に啓発した結果、年間約2千5百件の報告が上がってきています。

修理などで解決できるものは即対応している一方で、人為的なミスがなかなか無くならないという傾向が見えてきました。分析と検討を重ねた結果、職員一人一人が介護技術とケアの質を向上させることと、重要事項の申し送りを徹底することにポイントを当て、各委員会と協調して事故防止に取り組んでいます。

身体拘束・虐待防止委員会

委員長　島田　夢華

身体拘束の中で一番多いのは、『スピーチロック』です。

言葉でご利用者の心身の動きを抑え込んでしまう拘束です。PDCAサイクル（課題改善の手法）を利用し、主に認知症のご利用者が、何のために、どうしてその行動をするのかを分析し考えるところから始め、ケアを実行した結果、行動が改善されることがあり、職員の精神的余裕にもつながって、スピーチロックにあたる発言が、自然に少なくなりました。今後も日常生活の質の向上の取り組みのなかで、スピーチロック〝ゼロ〟を目指していきたいと思います。

トータルケア委員会

委員長　反町　直仁

私たちの委員会では、各サービス毎の部署間の垣根なく、ご利用者の意向を柱にして、愛老園全体で同じ方向性を持って生活を支援していくことを目的として活動しています。

しかし、昨年からのコロナ禍では、感染予防対策が何より最優先となり、ご利用者の方々に行動の制限を求める場面が多くあり、コロナの不安に加え、辛抱の中での生活になっていたと考えられます。

今後は、コロナ禍でのご利用者の心のケアもしっかり行っていくべきと考え、チーム全員で取り組んでいきたいと考えています。

“ないしょの話”

104歳と101歳

（愛老園ご利用）

環境委員会

委員長　小暮　由紀子

コロナ禍で利用に不安を感じているご利用者の方やご家族の方も多いと思います。ただ、自宅に引きこもってばかりいてはフレイル（虚弱）になる心配があります。ですのでその予防のためにも引き続き愛老園へ通っていただきたいと思っております。

私たちは、ご利用者の方々が安心して利用できるよう、換気や消毒等のコロナ対策を引き続き実施し、清潔で安全な環境を念頭に置いて活動していきます。そして皆様の笑顔が今よりもさらに増えるよう、私たちも笑顔を忘れず対応させていただきます。

接遇委員会

委員長　萩原　千恵子

コロナ禍で外出行事等ができない今、一人一人に寄り添える時です。

〝接遇が大切になります。〟

利用者様目線の言葉を入れた接遇マニュアルを、委員会で作りました。その言葉にハッとして、自分を反省できます。やわらかい言葉で接すると相手に伝わり、穏やかになります。

委員会では、ハラスメントについても研修、検討をして、一人で問題を抱え込むことなく、委員会として和らげるようにしていきたいと思います。

あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、基本的なことが利用者様にとってのよい環境になります。

研修委員会

委員長　片山　洋子

コロナ禍で私たちは、今まで当たり前だったことができない状況です。そのため、日々の楽しみやストレス解消方法なども制限され、自分自身が気づかないうちに、ストレスをため込んでしまう傾向にあります。

私たちは、自分自身の精神状態を把握するために、『気分調査票』を活用し、早めの対策を促しています。

自分の気持ちが安定していないと、相手にやさしく接することができなくなるため、相手のためにも自分自身の心のケアが重要であると考えられます。心のケアに重点を置いて研修を実施していきたいと思います。

QOL（生活の質）向上委員会

委員長　小林　亜矢子

幼い頃は、今できないことがあっても、ほとんどできるようになっていきます。でも、歳を重ねていくと、今までできていたことができなくなり、些細なきっかけで一人で活動することが困難になってしまったり、家族や専門的な支援が必要になったりします。身体が不自由になってしまうと、QOLが低下し、諦めることも多くなりがちです。

委員会では、一人ひとりの人生の歩み、想いと、今の生活を共に大切にするために、『PDCAサイクル（課題改善の手法）』を活用し、寄り添い、〝一人ぼっちにしない〟支援に取り組んでいます。

認知症・レクリエーション委員会

委員長　阿久津　匡世

恒例の催しができない状況ですが、それにより私達は、楽しい時間の提供を目標に、室内で密を避けたレクリエーションを行ってきました。そして、コロナ禍だからこその新しい発想や発見がありました。

作品作りでは、各事業所で作り上げた作品を持ち寄って審査し、各作品に〝賞〟をつけて表彰する取り組みを行いました。作る楽しさや充実感に加え、それを他の人に見られ、評価される喜びとやりがい、そして、全事業所間の繋がりを実感できました。

やる気を引き出すレクリエーションで、どんな時でも、豊かな生活のために取り組んでいきます。

特別養護老人ホーム愛老園

祝百歳　松浦ヨシ子様

大正10年3月30日生

『百年の歩み』

〝周囲への感謝〟

『ほんとビックリしちゃった。』

毎日の日課となっている色塗りの手を止めて、百歳になった感想を話してくださいました。

「私ね、新潟市古町四番町で生まれたの」

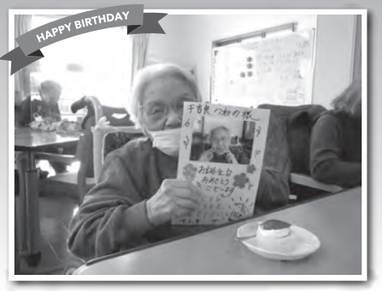
父は家具職人で兄弟6人の長女。中学校を卒業したころに、一家で群馬に引っ越し、松浦さんは中島飛行場の庶務課に勤務されました。

戦争という厳しい時代もありましたが、『私がこの年まで生きてこられたのは、いつも周囲の人たちに恵まれていたから』と、話されています。

そして、優しく育ってくれた子供たちへの感謝を、繰り返しお話し下さいました。

息子さんにいただいた風景画の塗り絵が、また一枚、完成しそうです。

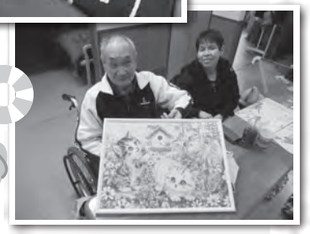
101歳のお誕生日



小規模多機能施設　うぬき

看護小規模多機能施設　広瀬

愛老園　デイサービスセンター



令和２年度社会福祉法人三友会決算報告

貸借対照表内訳表
令和３年３月31日現在　（単位：千円）

資産の部		負債の部	
流動資産	834,173	流動負債	55,278
現金預金	743,348	事業未払金	20,975
事業未収金	90,825	１年以内返済予定設備資金借入金	3,500
未収補助金	0	１年以内返済予定リース債務	316
未収収益	0	預り金	33
		職員預り金	2,854
		賞与引当金	27,600
		固定負債	13,842
固定資産	567,734	設備資金借入金	3,500
基本財産	462,313	リース債務	1,078
土地	65,525	退職給付引当金	9,264
建物	396,788	負債の部合計	69,120
その他の固定資産	105,421	純資産の部	
土地		基本金	67,426
建物	396	第１号基本金	32,000
構築物	5,050	第３号基本金	35,426
車輌運搬具	4,004	国庫補助金等特別積立金	188,726
器具及び備品	29,183	その他の積立金	56,417
建設仮勘定		設備等整備積立金	56,416
権利	486		
ソフトウェア	383	次期繰越活動増減差額	1,020,218
退職給付引当資産	9,264	（うち当期活動増減差額）	26,923
設備等整備積立資産	56,417		
差入保証金	60		
その他の固定資産	178	**純資産の部合計**	1,332,787
資産の部合計	1,401,907	**負債及び純資産の部合計**	1,401,907

資金収支計算書
（自）令和２年４月１日　（至）令和３年３月31日　（単位：千円）

事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	616,757
		借入金利息補助金収入	
		経常経費寄附金収入	420
		受取利息配当金収入	34
		その他の収入	1,619
		事業活動収入計（1）	618,830
	支出	人件費支出	440,710
		事業費支出	89,909
		事務費支出	35,698
		利用者負担軽減額	116
		支払利息支出	86
		事業活動支出計（2）	566,519
	事業活動資金収支差額（3）=(1)-(2)		52,311
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	10,419
		施設整備等収入計（4）	10,419
	支出	設備資金借入金元金償還支出	3,500
		固定資産取得支出	18,423
		ファイナンス・リース債務の返済支出	184
		施設整備等支出計（5）	22,107
	施設整備等資金収支差額（6）=(4)-(5)		△ 11,688
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	75
		その他の活動収入計（7）	75
	支出	積立資産支出	898
		その他の活動支出計（8）	898
	その他の活動資金収支差額（9）=(7)-(8)		△ 823
予備費支出（10）			
当期資金収支差額合計（11）=(3)+(6)+(9)-(10)			39,800